

私立通信制高等学校の現状と意義と課題

東海大学付属望星高等学校を例にして

名 和 優 子 東海大学付属望星高等学校

1. はじめに

最近、様々な場面で通信制高校が話題になることが多い。高校進学者が98%を越え、ほとんどの中学生が高校に進学するが、そこには多様な学び方があるからこそであると思う。では、実際通信制高校にはどのような生徒が進学をするのか、また、入学生たちの目標や学校生活などについて、今後検討を始める一歩となるべく本校を例に通信制高校の現状と意義と課題を検討してみたい。

2. 通信制高校とは

通信制高校とは、学校教育法第4条に「通信による教育を行う課程」の高等学校で、毎日登校する全日制とは違い、学習を課題の添削（レポート）、面接（スクーリング）、試験（テスト）を通じて単位を修得し、3年または4年以上の在籍で卒業要件を満たすことで高校卒業を目指す高等学校のことである。最初に1947年に通信による教育（国語のみ）が行われ、その後1961年の学校教育法の改正から高等学校に「通信制の課程をおくことができる」ようになった。この時、全国あるいは3つ以上の都道府県の生徒を募集対象とすることができる広域通信制、高等専修学校との技能連携制度なども制度化された。そして、高等学校の通信制の課程において教育を行うために必要な最低の基準とする高等学校通信教育規定が1962年に制定され、学習の方法が示されている。ここでは、先に述べた学習の進め方の他に、「学習書」と呼ばれる通信教育用学習図書の使用や、放送その他の多様なメディアを利用した指導等の方法を認めている。また、高等学校学習指導要領では放送やメディアによる授業を取り入れることにより面接時間を免除が認められている。1963年に最初の通信制独立校（公立）と広域通信制高校（私立）、そして技能連携制度を持つ通信制高校（私立）がそれぞれ開設した。

3. 『学校基本調査』にみる私立通信制高校の現状

①学校数と生徒数

通信制高校の学校数と生徒数は近年増加している。

年度	公・私立計		年度	公立計		年度	私立計	
	独立校	併置校		独立校	併置校		独立校	併置校
2005 (175校)	59	116	2005 (76校)	7	69	2005 (99校)	52	47
2010 (209校)	88	121	2010 (72校)	7	65	2010 (86校)	81	56
2015 (237校)	100	137	2015 (77校)	7	70	2015 (160校)	93	67

【表a】2005年度以降の通信制高校の学校数

上表 a からわかるように 2005 年度からの 10 年間で 62 校増加しており、そのうち 61 校が私立通信制高校である。私立高校通信制に数えられている学校の 160 校のうち、139 校が学校法人立、21 校が 2004 年から設立された株式会社立の高校である。

また、生徒数の変化をみてみると、少子化の影響で右表 b にあるように通信制高校の生徒数も減少傾向にある。しかし、設置別で見ると私立高校では生徒数は 3518 人（1.27 倍）増加していることがわかる。

設置者 年度	公立	私立	合計
2005	93.770	89.748	183.518
2010	86.843	100.695	187.538
2015	66.702	113.691	180.393

【表 b】2005 年度以降の通信制高校の生徒数

②年齢構成

2015 年度学校基本調査によると通信制高校の生徒の全体の平均年齢は 17

年度	15～19 歳	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60 歳以上
公立	53.2%	37.1%	6.3%	1.8%	0.6%	0.7%
私立	94.4%	4.4%	0.6%	0.2%	0.06%	0.1%

歳である。表 c からわかるように私

【表 c】2015 年度在籍生徒の年齢構成

立高校は 15～19 歳までの生徒が 94.4%で、公立よりも 10 代の生徒の在籍が多くなっている。

③進路状況

表 d をみると通信制高校卒業生の主な進路先は大学および専修学校への進学が最も多くなっている。通信制高校設立

区分	計	大学進学者		専修学校 (専門課程)	専修学校 (一般課程)	公共職業能 力開発施設 等入学者	就職者	左記以外の 者	不詳・死亡の者
		うち通信教 育部への進 学者を除く	進学者	進学者					
平成 26 年度間	51.497	8.639	8.307	10.854	1.170	398	9.279	20.513	653
公立	8.844	900	796	981	116	64	1.739	4.615	429
私立	42.653	7.739	7.511	9.864	1.054	334	7.540	15.898	224

【表 d】状況別卒業業者数進路状況

当時には働きながら学ぶ生徒が多く卒業後はまた職場に復帰していく生徒がほとんどだった。現在では進学を目的として学ぶ生徒も多く、特にそれは私立高校で顕著に見られる。

④私立通信制高校の特徴

私立通信制高校の特徴は、94%が普通科で、就業年限 3 年以上の学校である。91%が単位制高校で 2 学期制を採用している学校が多い。また、86 校の広域通信制のうち 65 校が私立高校である。* 2) その他、本校のようにメディアでの授業を展開する学校や e-Learning で課題提出を行う学校など、多様な生徒に対応できるように私立高校の自主性を活かした学校がある。一方で通学をし 3 年間で卒業の資格が整う全日制高校の形態を兼ね備えた学校が多い事が特徴と言える。

4. 東海大学付属望星高等学校の概況

①学校の概況

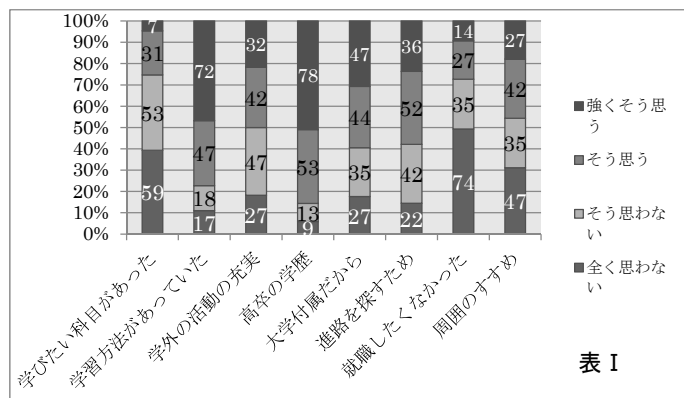
在籍生徒数は 2015 年度 10 月現在、東京校では放送教育コース 352 名(内転編入生 44%)、平日教育コース 306 名(内転編入生 25%)である。本校は日本における独自の通信講座を持つ通信制教育の先駆けとして 56 年の歴史と実績を持つ広域通信制高等学校であり、東海大学の付属高校として一貫教育を軸に教育活動を行っている。昭和 34 年 3 月に開設、5 月より FM 放送を利用した「高校通信教育講座」でラジオ放送による授業を開始した。昭和 50 年に広域通信制高等学校として認可された。広域通信制高校として講座の配信地域の拡大を目指し、平成 7 年からの衛星放送 (CS-PCM) 放送を経て、平成 22 年からは現代のニーズに対応したインターネットでの文字・画像つきの新たな「高校通信教育講座」での授業を行っている。平成 28 年度からはタブレット・スマホからも授業が受けられるようになる。1979 年には技能連携コースを開設。現在は 6 つの高等専修学校に 1008 名の生徒が在籍している。また、1989 年には登校意欲のある生徒の要望に対応するために平成元年に週 4 日登校型単位制の平日教育コースを開設。3 つのコースとなり現在に至って

いる。東海大学の建学の精神に基づき学習意欲を持った多様な生徒の状況に対応するために、「いつでも、誰でも、どこでも」をモットーに2学期制、通信型・登校型の2つの学習形態によるコース制で教育活動を行っている。生徒一人一人が卒業まで充実した学校生活を過ごし、より良い進路選択に導くことを目指している。

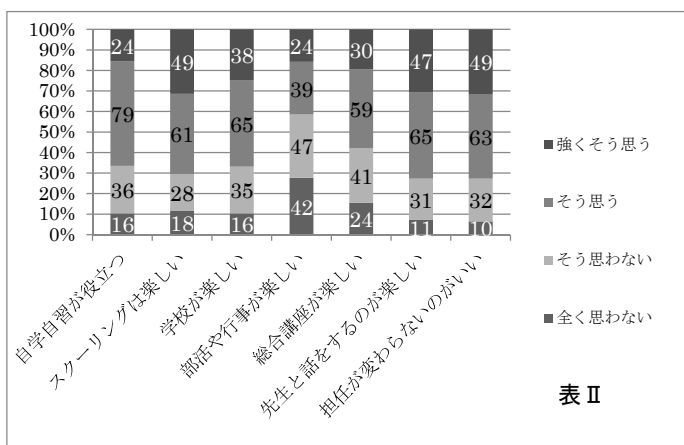
②生徒の現状—入学動機、高校生活、学校側からの支援

私立通信制高校について学校数、生徒数、年齢構成、進路状況、私立の特徴から統計的にみてきたが、これらについて実際の生徒の現状に照らして本校を一例に検討した。調査の方法は、2014年度（2015年度3月）卒業生へのアンケート調査で159名から回答が得られた。回答のあった生徒の年齢構成は152名が17～18歳、19歳以上の生徒は7名で最高齢は46歳であった。90%の生徒が中学校を卒業してすぐか、他の高校に進学してから転編入学した生徒であった。

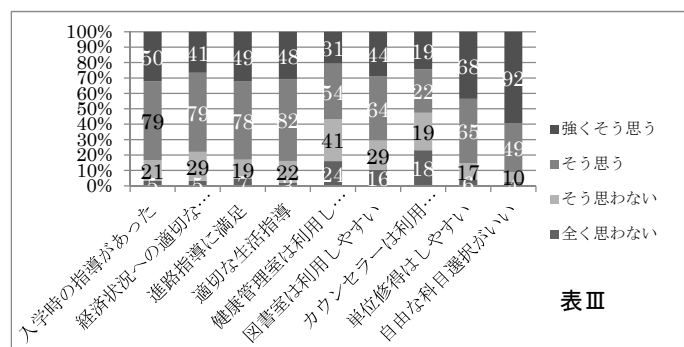
表Ⅰは入学動機について質問した結果である。本校への入学動機は学習方法が自分にあっているかどうか、高校を卒業したいという意思、大学付属校という3つの動機が最も強い事がわかる。本校の場合、多くの生徒が不登校の経験を持ち、不登校克服とマイペースで大学進学を目指すことを目的としている。2014年度卒業生は212名で、年度内進学者数は東海大学90名、他大学153名である。尚、あるクラスの進路状況でみると大学進学23人、専門学校2人、職業開発校1名、受験準備1名、卒業後就職2名となっており、高校卒業後の進学を目指して入学した事が裏付けられる。表Ⅱは高校生活については、何らかの理由で学校に行けない不登校であった生徒が、この結果からは主に学校に来ること、教師と話をする事に満足度が高くなっている。しかし通信制高校の特徴も表していて登校日数が少ない事などから、部活動や行事への満足度は40%程度に表Ⅲでは学校側からの様々な支援について質問した。本校では生徒の学習が継続しやすいように様々な支援を行っている。一般的に通信制高校は学習が継続しにくい、大変さがあるという印象があるが、それらについての満足度はいずれも高いことがわかった。その中で、



表Ⅰ



表Ⅱ



表Ⅲ

「卒業後の生活に望星高校での学習や経験がいかにされると感じますか」という質問に対して、全体では79%が強く思う、またはそう思うと回答している。このことを入学経緯別に4群で分析してみると、中学校卒業と同時に通学型コースへの入学生では83%、他の高校から転編入での通学型コースへの入学生では

68%、中学校卒業と同時に通信型コースへの入学生では91%、他の高校から転編入での通信型コースへの入学生では83%、と通学型で他校からの転編入生の満足度に違いが見られた。つまり中学校卒業後の進路選択の1つとして通信制高校を選択する生徒の満足度は高く、全日制高校からの転編入生については、転編入についての経緯や現状の学校生活に対する思いに個人差があり学校生活の上でよりケアが大切だと言う事が言えると思う。

5. 私立通信制高等学校の意義と課題

通信制高校の意義は大きく変化している。それは、開設当時は『学ぶ意欲のある有職少年』を対象とした学びの場から、全日制の生徒と同様に10代の生徒が通信制高校で高校生活を楽しく過ごすことを目的とした学びの場に変化しているという点である。統計や本校の例からも見てきたように特に私立通信制高校では顕著である。具体的には、学力面で全日制に進学できない生徒に対して、全日制に入学後の学校不適應による中途退学者に対して、高等専修学校との連携生に対して、不登校や精神的・身体的理由により全日制ではなく通信制を選択したい生徒に対して、という4つの視点で見ることができる。つまり、高校に進学したい意欲がある生徒への学びの場を全日制高校とは別の視点で提供しているという意味で大変意義深いものであると思う。その中で高校卒業後のより良い進路選択を目的とする生徒も多くなっている。これは「私立学校の特性にかんがみ、その自主性を重んじ、公共性を高める」ことによって発展していこうとする私立学校だからこそ、本校の教育システムにもあるように様々な生徒が学びやすい学習システムを作っていこうとしている点にあると思う。

しかし、課題も大きい。一言でいうとそれは「教育の質の確保」が最重要であるということである。このことは「ソフト面とハード面」の2つの側面から考えることができる。「ソフト面」ではこれまで見てきたように通信制高校は不登校を経験した生徒が少なくない。不登校の要因は様々であるが、事実、生徒の学力格差、発達障害、家庭の問題など、生徒個人の状況が大きく異なる。そのため①多様な生徒（学力含む）を理解する教員の指導力②多様な生徒同士のコミュニケーションを支援する教員の指導力③進学を目的とした学習内容の定着などが挙げられる。一方「ハード面」では施設・設備や学習を定着させるためのシステムなど学習を継続するために必要な良い学習環境の確保が望まれる。学習環境の確保には費用の負担が学ぶ側に大きく依存する。いかに通信制高校受験者数が増加しても、増加する通信制高校と減少していく学習年齢層の人口で各学校での入学者数は減少していくと思われる。その際の費用の負担は大きな課題となりうる。また設置基準の内容や義務づけが必要であるものの明確化など、学校を認可する際の制度上の問題の精査も重要である。通信制高校は様々な状況にある生徒の学習環境を確保することができる大きな可能性を秘めた場である。しかし、課題をより整理して柔軟に対応できるような学校運営をすることができるようにすることが重要である。

【参考資料】

- * 1 表 a～表 d e-Start に掲載されている各年度版の「学校基本調査」を基に作成
- * 2 『定時制課程・通信制課程高等学校の現状』 文部科学省 高等学校教育部会第19回資料
- * 3 『通信制高等学校の第三者評価制度に関する調査研究』国立大学法人山梨大学 大学教育研究開発センター、通信制高等学校の第三者評価手法に関する研究会、2011年3月